

『3.11 を忘れない「祈りの絆」』

吉田真司

本日は月の第二主日、当教会の「東日本大震災を覚える日」です。それに際して、日本バプテスト連盟東日本被災地支援委員会「3.11 を忘れない『祈りの絆』」(2024年春号)より内容抜粋して紹介し、共に被災現地の今の課題を覚えたいと思います。

(以下、筆者による要約)

東日本大震災より13年を数え、東日本大震災被災地支援委員会は「福島」に特化した働きとなりました。多様な「福島」の課題が長期にわたるため、同委員会は東北バプテスト連合被災地支援委員会と、福島の3教会と協働しつつ、健康被害防止活動や地域との長期にわたる課題を担ってまいります。

東日本大震災による福島県の被災は、「地震・津波」と共に「原発事故」が加わる「複合被災」です。福島県の内のはほとんどは他の地域と変わらない日常生活が展開しています。しかし現在も、原発事故による「原子力緊急事態宣言」は発令中で、原発事故による被災は継続中です。いくつかの「福島」課題を挙げますので、覚えて祈ってください。

- 「廃炉」・・・政府と東電は40年で廃炉する計画を立てています。最大の難関は、事故により溶け落ちた「熔融核燃料」の取出しです。廃炉の期間40年が妥当か、また新たな事故が起きないかが危惧されます。
- 「汚染処理水放出」・・・東電は2023年8月に放射性物質を含む汚染処理水の海洋放出を開始しました。放出は約30年にわたり、長期にわたる安全確保が課題です。
- 「帰還困難区域」の現状・・・昨年、放射能汚染で帰還困難区域の内、6町村の避難指示解除が完了しました。それら各自自治体で商業施設建設、再開発、基幹産業の再生に向けた事業等が進行しています。
- 「中間貯蔵施設」・・・原発事故によって汚染された土壌や草木、焼却灰などを保管する中間貯蔵施設には、東京ドーム約8杯分の汚染廃棄物が保管されており、県外の最終処分場は決まっていません。
- 「放射能の影響」・・・家や学校の周りは除染しましたが、山や森は除染できず、今もホットスポットとして放射性物質が残っています。甲状腺がんなど、長期にわたる「低線量被曝」の影響が心配されます。

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
		(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>